

木材ニューズレター

(財)日本木材総合情報センター

TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(19年12月分)

1. 調査実施期間 平成19年 11月20日 ~12月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

12月分の回答企業数は40社、回収率は87.0%である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

$$\text{Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス)} = \{(\text{「増加」の評価を行った回答の割合}) \times 2 + (\text{「やや増加」の評価を行った回答の割合}) - (\text{「減少」の評価を行った回答の割合}) \times 2 - (\text{「やや減少」の評価を行った回答の割合})\} \div 2$$

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		19/12月	20/1月	2月
仕入動向	国産材	△ 8.1	△ 16.1	△ 8.1
	外材	△ 21.4	△ 14.3	△ 10.0
販売動向	国産材	△ 19.4	△ 25.8	△ 11.3
	外材	△ 22.9	△ 24.3	△ 11.4
在庫動向	国産材	△ 4.8	△ 14.5	△ 1.6
	外材	△ 15.7	△ 22.9	△ 11.4

仕入は、国産材が大きく上下するマイナス基調だがほぼ横ばい。外材は大きなマイナス堅実に縮めたが相変わらず弱含み。販売は、国産材、外材とも大きなマイナス幅を年明けも続け、回復への道のり彼方。在庫は国産材が年明け後にマイナス大きく上下するが堅調。外材は大きなマイナス変わらず横ばい。

(2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	19/12月	20/1月	2月
スギ正角(グリーン)	△ 13.6	△ 4.5	△ 2.3
スギ正角(KD)	△ 10.9	0.0	4.3
ヒノキ正角	△ 8.7	△ 4.3	2.2
ヒノキ土台角	△ 6.5	△ 2.2	0.0
米ツガ正角(現地挽)	6.8	△ 6.8	△ 2.3
米ツガ防腐土台角	19.6	△ 4.3	△ 6.5
米ツガ割物(現地挽)	0.0	△ 2.1	△ 2.1
米マツ平角	△ 10.4	△ 4.2	△ 2.1
北洋アカマツタルキ(現地挽)	△ 27.3	△ 13.6	△ 4.5
ホワイトウッド集成管柱	△ 37.5	△ 14.6	2.1
レッドウッド集成平角	△ 23.9	△ 4.3	2.2
型枠合板(国産)	△ 23.7	△ 10.5	△ 2.6
型枠合板(輸入)	△ 27.5	△ 12.5	2.6
針葉樹合板	△ 52.5	△ 17.5	△ 5.0

スギ正角(グリーン、KD)小さなマイナス、小さなプラスとようやく明るさ出た。またヒノキ正角、土台も同様に先行き好調。米ツガ正角、割物、防腐土台とも当面好調だが、先行きはかげり模様。米マツ平角は堅調な推移。北洋アカマツタルキ大きなマイナスを一気に縮め、回復気配でている。ホワイトウッド集成管柱、レッドウッド集成平角とも大きなマイナス一気に縮め、小さなプラスで先行き回復近いと期待。

合板(針葉樹を含)は極めて大きなマイナスから回復気配だが勢い弱い。

1. 荷動き		コメント
仕入 動向	米マツ一般材丸太は、米物輸出価が11月積みも小幅下げとなったが、カナダ物オールド材は出材減からFASは上昇している。強烈なフレート高から、輸出価に関係なく問屋コストは上昇している。(東京:問屋)	
	産地価格は依然として強いが、日本向けの生産を辞める工場の処分品がある事から、調達価格にバラツキが出ている。(東京:問屋)	
販売 動向	米ツガグリーンは未だオファー量が少ない。(東京:問屋)	
	価格は下げているが仕入れ意欲は全く無い。マーケットが縮小している。(東京:問屋)	
	カナダドル高は相変わらず、コストアップに悩んでいる。(東京:問屋)	
	新材の季節となり、仕入れは増やす予定。(東京:問屋)	
在庫 動向	今月も相変わらず仕事量増えず、ヒノキ構造材全般に年末に向かって弱含み。(東海:問屋)	
	年末年始の信用不安の増大を恐れる。しばらく様子見。(東京:仲買小売)	
	京浜マーケットでは深刻なオールド材不足が続いているが、コースト材は引き合いも鈍く、明暗を分けている。(東京:問屋)	
	見積りは増えているが、価格の基準が前値や倒産処分品だったりして、新規入荷品との値差は開いたまま。(東京:問屋)	
	「ずれ込んでいた仕事が11月頃から出始めるのではないか」という予想ははずれた。(東京:問屋)	
	11月より得意先からの問い合わせは減ると思われる。(東京:問屋)	
	11月下旬から荷動き益々減少。来年に期待するしかない。(東京:問屋)	
	売れない。徹底した当用買いで動き悪い。(東京:問屋)	
	販売(卸)は不振、リフォーム部は忙しい。来年3月までは仕事が切れないが、その後は不透明。(東京:仲買小売)	
	全体に低め水準。今まで仕事を持っていた所も切れ始めている。お客も仕事が安定せず、そのためもあつてか支払いが滞っているところが出始めている。(東京:仲買小売)	
支払いが安心な有力工務店の動きが良くない。支払い不安なリフォーム業者のみ動いている。来年の仕事の話全く無し。(東京:仲買小売)		
単発で多少動いても全体的にはスズメの涙。(東京:仲買小売)		
新築のウェートは元々多くないので、悪いなりに変化なし。(東京:仲買小売)		
10月の販売は今年度最高になった。11-12月はやや減少だが例年通りの販売量を予定。1月は減少傾向。(東海:問屋)		
在 庫 動 向	米マツコースト材は各問屋手持ち在庫多いが、カスケード材はまったく無い。(東京:問屋)	
	新規入荷量が少ない事から、特種寸法品の在庫は殆んど無い。(東京:問屋)	
	いつも安定した量を在庫するよう努力したい。(東京:問屋)	
	仕入れが皆無のため漸減傾向である。(東京:問屋)	
	出荷分を補充する程度で増減なし。(東京:仲買小売)	
米 マ ツ 平 角	仕入れやや控え、在庫を見ながらの調達。11月末にほぼ適正在庫になる予定。(東海:問屋)	
	在庫は持たない。市場からの当用買い。(東海:仲買小売)	
	あえて在庫を持ち、客への強みとしている。(東海:仲買小売)	
2. 価格動向		
スギ正角	産地も売れ行きが悪く、多少安い物もある。(東京:問屋)	
	KDは上がりそうだが、これからの着工戸数の増減次第。(東海:仲買小売)	
ヒノキ正角	価格横ばい。柱は動きやや上昇。(東海:問屋)	
ヒノキ土台角	原木・製品ともに弱含み。(東海:問屋)	
米ツガ	入荷量が少ない為価格は高値据置。今回のストの影響で一番上がったのは注入土台。(東京:問屋)	
	正角はハウスメーカー指定材のみで、価格ほぼ横ばい。土台は10月に値上げし、現在は品不足であるが価格は横ばい。12月中旬以降の入荷動向が注目される。(東海:問屋)	
米マツ平角	グリーン材は殆んど市場性が無くなっている。(東京:問屋)	
	集成材の下落はあるが、平角はほぼ横ばいを予想。(東海:問屋)	
北洋アカマツ タルキ	需要回復待ち。(東海:問屋)	
	ここまで弱気になるとは年初には予想出来なかった。(東京:仲買小売)	
	落ち込みひどいが2年前ほどではない。(東海:仲買小売)	
WW・RW 集成材	関西のメーカー(長尾)の倒産後小康状態が続いている。(東京:問屋)	
	RW集成は下げ続けているが、このあたりが底値かと思われる。(東京:問屋)	
	依然として需要回復せず価格弱い。コストを大幅に下回る価格提示の物も出回っている様子。(東海:問屋)	
	一応下げ止まり。(東海:問屋)	
合板	大手針葉樹合板メーカーは、年末年始にかけて減産強化を図ることを発表し、需給バランスの早期回復を目指す方針。(東京:問屋)	
	落ち着くところに落ち着き、割合しかりしている。現在値がキープされていくのではないかと。(東京:仲買小売)	
	針葉樹合板の下げが止まらない。年内に700円台突入か？(東京:仲買小売)	